

家計の予算制約と暮らし向き

家計の暮らし向きは、予算制約の下で、最大限どれだけの満足を得る消費ができるかによってきまる。家計の名目所得や消費財の価格が変化するとき、家計の暮らし向きがどのような影響を受けるかをはっきり表すために、予算制約線と無差別曲線が必要である。

I. 選択の範囲

A. 選択の範囲をきめる条件： 所得（予算）制約線

1. 所得，予算
2. 消費財価格

例：

1 ヶ月の予算			10 万円
消費財の価格	コメ	1000 円 / 1kg	
	牛肉	5000 円 / 1kg	

10 万円の予算で買えるコメと牛肉の量

コメ	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0
牛肉	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20

B. 選択の範囲と家計の暮らし向き

1. 範囲の拡大： 暮らし向きの向上
2. 範囲の縮小： 暮らし向きの悪化

II. 実質所得の変化

A. 所得のみの変化

1. 所得の上昇： 実質所得の上昇
2. 所得の下落： 実質所得の下落

B. 価格の同じ比率での変化（例： 1000 円 → 800 円，5000 円 → 4000 円）

1. 価格のみの変化
 - a. 価格の上昇： 実質所得の下落
 - b. 価格の下落： 実質所得の上昇
2. 所得と価格の変化

III. 相対価格の変化（例： 1000 円 → 700 円，5000 円 → 4000 円）

A. 消費財価格の比

1. 相対価格あるいは価格比の意味，その表わし方

$$\frac{1000}{5000} = \frac{1}{5}, \quad \frac{800}{4000} = \frac{1}{5}, \quad \frac{700}{4000} = \frac{7}{40}$$

2. この比率は，予算制約線の傾きをきめる。

B. 二つの変化

1. 予算制約線の傾き
2. 選択の範囲

IV. 無差別曲線を用いて考える

A. 無差別曲線とは

1. 二つの消費財の異なる組み合わせが、消費者に同じ満足を与えると考える。
2. 消費者に同じ満足を与える消費財のさまざまな組み合わせを示すグラフ。

B. 暮らし向きの変化

1. 予算制約の範囲
2. 実現できる最大の満足

参考文献

教科書．第 3 章．第 1 節，第 2 節，45-51 ページ．